NIFS-AP News

◆教員から体育大生へのメッセージ
◆学長特集
◆教員顕彰
◆ご挨拶

2024.04　vol.14

写真提供：女子バスケットボール部

～教員から体育大生へのメッセージ～

スポーツ生命科学系

赤澤　暢彦　准教授

研究キーワード

トレーニング，コンディション
スポーツ生理学，
スポーツ医学

「キバレ」

わたしは中学生の時になにかの記事で「超回復」というのを目にして，ヒトの身体にはこんな現象があるんだ!すごいおもしろい!このようにスポーツ科学に関する職業に就きたい!と思ったのが，大学の教員になったきっかけです．その時は漠然と考えていたものが，大学・大学院に進学し勉強することで，だんだんイメージできるようになってきました．ただし，わたしの場合は，大学受験で失敗して浪人しているし，大学院に進学する前に一旦就職したりと，そこまで順風満帆でなく遠回りもしてきました．また，優秀でもなく，要領も良い方ではなかったので，才能がない自分は質より量で勝負と，人一倍努力するように心がけてきました．現代社会ではコスパが重視されがちですが，人より多く時間を費やすことも大切であるとわたしは思います．Apple 社のスティーブ・ジョブズ氏は，Mac 開発時に「90 hours a week and loving it!」と言って，週 90 時間以上の労働勤務だったと言います．ここまでくると今の時代ではついていけないかもしれませんが…逆に言えば何か成し遂げるにはそれなりの労力は必要になるということです．鹿児島出身の長渕剛さんは「いっどま～けしんかぎぃきばいやんせ～♪」と歌っています．一度は死ぬほど頑張ってみなさい，という意味です．私もこの曲を聞きながら，若い時にこれでもかというくらい頑張ったおかげで，少年時代に夢描いた仕事をできる様になれたと思います．大学生活は，授業・部活・バイト・家事など本当に大変だとは思いますが，目標や夢に向かって，労力を惜しまずキバってください．

鹿屋体大生よ，大志を抱け．

学生のみなさん，こんにちは．スポーツ生命科学系の石澤里枝です．昨年 4 月に着任したばかりですが，本学の学生さんのすばらしいなと思うところ，それは多くの学生さんがすれ違うときにきちんと挨拶をしてくれるところです．えっ，当たり前でしょ，と思われるかもしれませんが，転々としてきた私にとってはいい意味で驚きでした．これまでの経験で自然と身についているのだと思います．これから先もずっと忘れずにいて欲しいです．

さて，みなさん，「人生の目標」は何ですか．目先のことではなくて，5 年後，10 年後にどうありたいか，少し先の未来の目標です．夢中になれることや人生かけてやりたいことは何だろう，とご自身の中で考えて，考えて，悩み抜いてください．簡単には出てこないかもしれませんが，ぼんやりでも見えてきたら，今すべきことも具体的に見えてきます．また，目標を達成するために 1 番必要なことは「強い意志」です．優秀さや能力ではありません．強い意志，岩をも通す，です．苦難に立ち向かうのも，いざ本番の時も「強い意志」，これがある人が最後は強いです．そのためには何が何でもやるぞ!という，あなたにしかない確固たる目標をまずは決めること．そして次に，日々，確固たる努力を，何度も何度も続けること．

「人生の目標」をじっくりゆっくり考えるのに，今の学生生活の時間はベストです．学生の皆さんの可能性は無限大です．何者にでもなれます．鹿屋体大生よ，大志を抱け!

スポーツ生命科学系

石澤　里枝　講師

研究キーワード

運動栄養学

金久博昭学長から体育大生へ

文武不岐で，A.C.E. KANOYAを目指そう

：鹿屋体育大学は，学生の「挑戦的・主体的・自律的な活動」を全力で支援します！

金久博昭学長

1.「A.C.E. KANOYAを目指そうプロジェクト」の取り組み

この取り組みは鹿屋体育大学がスポーツの各領域を将来的に先導的役割を果たす大学となるべく，2050 年をターゲットイヤーとした大学ビジョン「NIFS NEXT30」に①教育・学生支援,②研究,③国際化,④社会連携・社会貢献 4 つのミッションを掲げており，A.C.E. KANOYA は,①教育・学生支援の取組みです．

また，大学スポーツ振興のための事業の統括を行う鹿屋体育大学アスレチックデパートメント（AD）に，令和 5 年 10 月新しく設置された教育・学生支援部門において検討し，推進しているものです（コラム 1 参照）．

2.「鹿屋体育大学アスリート憲章」の再確認：インテグリティと社会規範の遵守

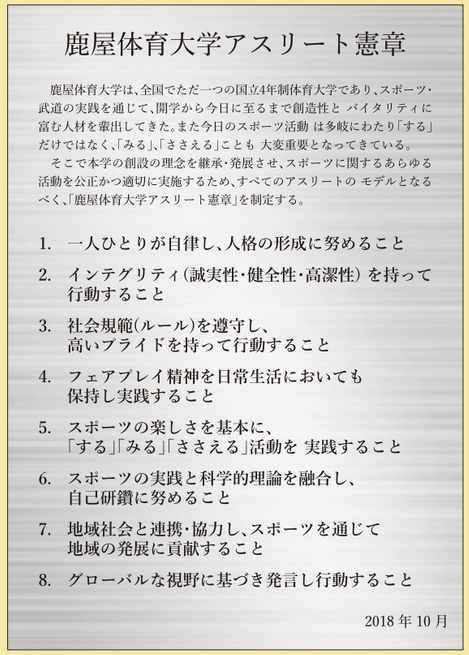
ここ数年，大学スポーツ界では大麻に関連する不祥事が相次ぎ，社会的には「大学スポーツの危機」とまで言及される状況にまで至っています．アスリート及びその指導者のあり方として，スポーツマンシップやフェアプレイ精神の遵守だけではカバーできない状況を生み出していると言えます．

では，我々はどのようなアプローチを取ればよいのかというと，当然，全学的な注意喚起，教育セミナー等は，これまでと同様に継続的に実施していくことになります．それに加え，授業，クラブ活動，ゼミ活動等において，「スポーツインテグリティとは何か」「社会性に関わる資質とは何か」を，学生自身が考え続ける機会を持つことが肝要ではないかと思います．

ただし，目指すべきところについて，我々は共通理解をもつ必要があります．何をよりどころに，議論の場を設定すればよいのかというと，本学が 2018 年に制定した鹿屋体育大学アスリート憲章に明記されている内容が，それに該当すると私は考えます（右写真参照）．

鹿屋体育大学アスリート憲章に含まれる内容は，NIFS NEXT30 における A.C.E. KANOYA として求められる資質の基盤をなすものと言えます．

今一度，鹿屋体育大学アスリート憲章を改めて確認し，授業，クラブ活動，ゼミ活動等，学生間あるいは教員と学生との間でのコミュニケーションが取れる場を通して，スポーツインテグリティ，社会性に関わる資質とは何か，またそれを具現化するためには，自分自身，何をどのように努力すればよいのか，学生自身が考え，自ら答えを導き出す，という雰囲気を全学あげて作り上げたいと思います．ご協力をお願いいたします．



鹿屋体育大学アスリート憲章

鹿屋体育大学は、全国でただ一つの国立4年制体育大学であり、スポーツ・武道の実践を通じて、開学から今日に至るまで創造性と パイタリティに富む人材を輩出してきた。また今日のスポーツ活動 は多岐にわたり「する」だけではなく、「みる」、「ささえる」ことも 大変重要となってきている。

そこで本学の創設の理念を継承・発展させ、スポーツに関するあらゆる活動を公正かつ適切に実施するため、すべてのアスリートの モデルとなるべく、「鹿屋体育大学アスリート憲章」を制定する。

1. 一人ひとりが自律し、人格の形成に努めること
2. インテグリティ（誠実性・健全性・高潔性）を持って行動すること
3. 社会規範（ルール）を遵守し、高いプライドを持って行動すること
4. フェアプレイ精神を日常生活においても保持し実践すること
5. スポーツの楽しさを基本に、「する」「みる」「ささえる」活動を 実践すること
6. スポーツの実践と科学的理論を融合し、自己研鑽に努めること
7. 地域社会と連携・協力し、スポーツを通じて地域の発展に貢献すること
8. グローバルな視野に基づき発言し行動すること

2018 年 10 月

本憲章の銀盤は，

①事務局のある管理棟横のピロティの図書館側壁面

②学生食堂の出入り口付近に設置されています．

3.「文武不岐（ぶんぶふき）」で，「A.C.E. KANOYA賞」を目指そう！

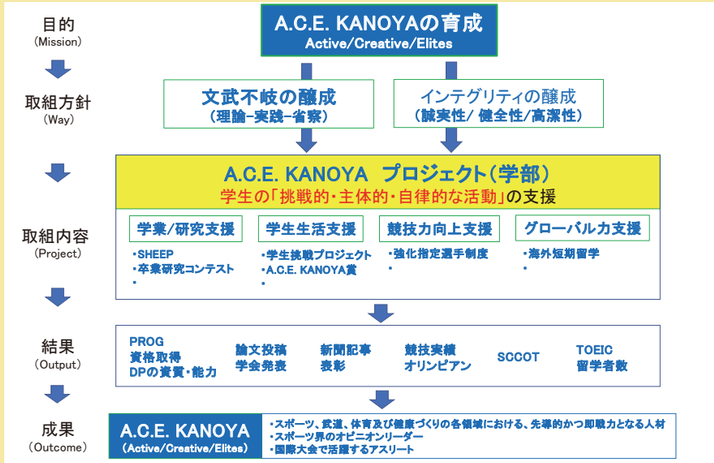
本学の長期ビジョンである NIFS NEXT30 では，育成をめざす人材像として「スポーツ，武道，体育及び健康づくりの各領域における，先導的かつ即戦力となる人材」「スポーツ界のオピニオンリーダー」「国際大会で活躍するアスリート」を挙げ，育成する学生の特徴を表すスローガンとして【活気ある（Active）独創的な（Creative）精鋭たち（Elites）:A.C.E. KANOYA】を掲げています．

A.C.E. KANOYA（エースかのや）の実現は，本学長期ビジョンの大きな目標の一つであり，その達成に向け，以下のような具体的なアプローチで進めます．

まずは，前述の「インテグリティ（Integrity）」を醸成しながら，「学生アスリートの学業充実」が当面の主要な課題であり，本学学生における「学業とスポーツ・武道実践のハイレベルでの両立」，すなわち「文武不岐注)」の姿勢の育成を推進していきます．

その第一弾として，令和 5 年度の卒業生から，文武不岐で学業，競技成績ともに優秀な成績を残した学生を「A.C.E. KANOYA 賞」として表彰します（コラム 2 参照）．

注）「文武不岐」とは，「学問を究めることがスポーツを究めることにつながるし，その逆もそうである」ということを示す．



A.C.E. KANOYAの実現に向けた取り組み概要

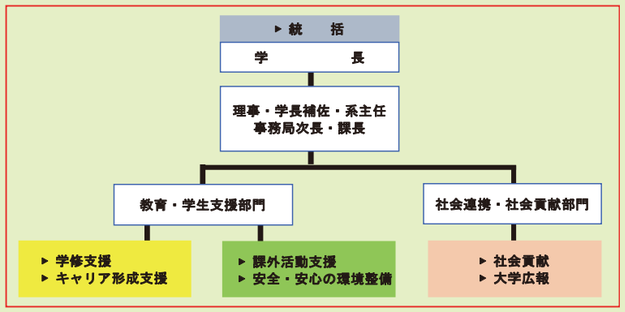
上記は学部学生の支援を示していますが，大学院の修士課程及び博士課程学生の支援もあります．詳しくは二次元コードで確認してください．

A.C.E. KANOYAを目指そう
プロモーションビデオはこちらから

コラム

1.「アスレチックデパートメント（AD）」とは・・・

本学のADとは，大学スポーツの振興に向け，本学のスポーツ推進の中核的役割を担うとともに，大学スポーツに係る取組を一体的に統括する組織をいう．学生競技者の競技活動，学業，キャリア支援を含む学生生活の充実を支援することで人材育成と輩出の貢献を行う．



2.「A.C.E. KANOYA賞」とは・・・

学業等優秀者で全国大会8位入賞以上，競技力優秀者でGPAが3.0以上の各最高位の学生が対象で，各1名に授与される．「文武不岐」に努め，「文武両道」を極めた学生が選出される．

授業振り返りアンケートの結果は教員顕彰にも活用されています！

※　今回は令和４年度の授業に対するものです．

特別優秀授業賞

本学の授業において，特に優れた教育能力を発揮した教員に送られる賞です．毎年３名の方が表彰されます．

スポーツ・武道実践科学系
三浦 健 准教授

バスケットボール，バドミントンを担当しています．1回の授業の内，前半は基本技術を紹介し取り組んでいます．技能が高いレベルの受講生には先生方と共に初心・初級者の受講生に指導する体制で授業を展開しています．受講生にとっては，できるようになるだけでなく，できない人に教える機会にもなります．後半は紹介された技術を試すゲームです．寄る年波には勝てませんが，皆さんと対戦を続けられるよう精進します！

スポーツ人文・応用社会科学系
浜田 幸史 准教授

「教員は授業が命，授業で勝負」を信条に，「学習者と共に授業を創ること」，「授業そのものを楽しむこと」を大切にして授業を行ってきました．学習者のイイ顔を見たいから，チカラを高めたいからです．授業がうまくいくことはとても嬉しいものです．その成果を求める分，準備は大変になりますが，和やかな雰囲気の中にある真剣勝負に挑み続け，学習者との駆け引きを楽しみたいです．これからもよろしくお願いします．

スポーツ人文・応用社会科学系
栫 ちか子 准教授

これまで本学のみならず，様々な学校や対象に向けて授業を実施してきました．しかし，「今日は完璧だった！」と思えた授業はまだ一度もありません．毎回，授業後には必ず反省点があり，課題が残ります．「次こそは！」と授業に臨みますが，また新たな改善点が出てきます．きっと，教員を辞めるまで，このサイクルは繰り返されるのでしょう．授業には正解はないけれど，より良い授業を求めて，日々，努力していきたいと思います．

優秀授業科目担当者

令和４年度において優秀授業賞で顕彰された教員の一覧です．

「授業振り返りアンケート」は，受講学生のより充実した学びを促進するとともに，教員の授業改善の取組を加速させることにも寄与しています．毎学期のアンケートは大変かも知れませんが，学生自身の率直な振り返りが本学の教育の質を向上させることにも繋がっていることを理解し，取り組んでいただければと思います．

実技科目

成田　健造	陸上・体操・水泳④	萬久 博敏	陸上・体操・水泳④
前村 かおり	バスケットボール①	三浦 健	バスケットボール①

講義・演習科目

栫 ちか子	教職実践演習（中・高） 保健体育科教育法Ⅰ 保健体育科教育法Ⅱ 保健体育科教育法Ⅲ 保健体育科教育法Ⅳ 特別活動論	永原 隆	教職実践演習（中・高）
金高 宏文	キャリアセミナー キャリアデザインⅡ	中村 勇	キャリアデザインⅠ

講義・演習科目

国重　徹	キャリアセミナー	中本 浩揮	教職実践演習（中・高） キャリア対策セミナー
栗山 靖弘	教職実践演習（中・高） キャリア対策セミナー 国語・文章表現法 総合的な学習の時間の指導法 生徒・進路指導論	濱田 幸二	教職実践演習（中・高）
小森 大輔	教職実践演習（中・高）	浜田 幸史	教職実践演習（中・高） 保健体育科教育法Ⅰ 保健体育科教育法Ⅱ 保健体育科教育法Ⅲ 保健体育科教育法Ⅳ 特別活動論 キャリア対策セミナー
坂中 美郷	教職実践演習（中・高）	藤井 雅文	教職実践演習（中・高）
下川 美佳	教職実践演習（中・高）	藤田 英二	コンディショニング論・実習
隅野美砂輝	スポーツビジネス論 キャリアセミナー	松村 勲	教職実践演習（中・高）
関　朋昭	スポーツマネジメント概論	棟田 雅也	スポーツビジネス論
竹中健太郎	教職実践演習（中・高）	森 克己	教職実践演習（中・高） キャリア対策セミナー 国語・文章表現法

3月末退職のご挨拶

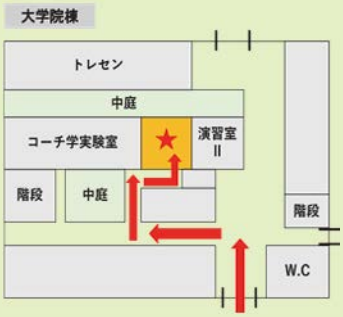
2023年4月から1年間，教育企画・評価室の業務に携わらせていただきました．本業務を通して，先生方や職員の方が試行錯誤し，充実した学生生活を過ごせるよう，たくさんの工夫がされていることに驚くことばかりでした．学部・修士・博士と9年間お世話になりましたが，恵まれた環境で学生生活を送られていたのだと改めて実感しました．鹿屋体育大学の環境や支援をフル活用し，学生のみなさんが充実した学生生活を送られることを願っています．

最後になりますが，室長の金高宏文先生，室員の先生方，業務を共にした淵田瑠美さん，教務課の皆さん，ご迷惑をおかけしながらも1年間ご指導いただき，ありがとうございました．（特任研究員　田川浩子）

〈 発行 〉

鹿屋体育大学　教育企画・評価室
〒891-2393　鹿児島県鹿屋市白水町1番地　大学院棟１階

・TEL&FAX：0994-46-5082
・E-MAIL: kyoumu-ap@nifs-k.ac.jp

〈 企画・編集 〉

田川浩子・金高宏文・淵田留美